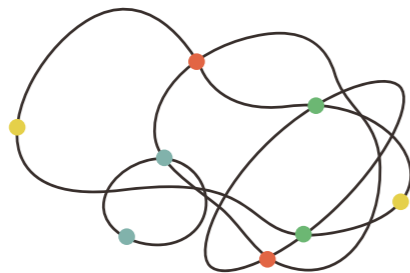


主催



SHARING  
ECONOMY  
ASSOCIATION JAPAN

お問い合わせ : [info@sharing-economy.jp](mailto:info@sharing-economy.jp)

SHARE  
SUMMIT  
2019

# Co-Economy

共創・共助がつくる  
令和時代の新しい経済

開催レポート

# Co-Economy

会期 2019年11月11日(月) 12:30-21:00  
会場 虎ノ門ヒルズフォーラム 5F  
主催 一般社団法人シェアリングエコノミー協会

## 共創・共助による新しい経済を 皆で考える1日

2019年11月11日(月) 虎ノ門ヒルズで「SHARE SUMMIT 2019」を開催しました。

シェアリングエコノミーの普及・促進をおこなっている、私たち一般社団法人シェアリングエコノミー協会が、2016年の設立時から一年に一度、日本最大のシェアの祭典として開催している「SHARE SUMMIT」も今年で4年目となりました。

SHARE SUMMIT 2019のテーマは「Co-economy」です。100年に一度の大変革時代と称され、ビジネスや暮らしの前提、個人の消費スタイルが大きく変わり、世界中で社会のあり方が問われている2019年に、令和という新たな時代を迎えた日本ならではの経済モデルを現代に、そして未来に示す覚悟をテーマに込めました。

当日を迎えたSHARE SUMMIT 2019には、協賛企業49社、ブース出展36社、登壇者49名、来場メディア45社、そして来場者1,155名と政府、自治体、企業、シェアサービス、個人など様々なセクターにご協力いただき、過去最大規模で開催することができました。

しかし、SHARE SUMMIT 2019はスタート地点です。共創・共助による新しい経済モデルが作る豊かな社会に向けて、今後ともよろしくお願いします。

総来場者

1,295名

来場者(スポンサー含む)

1,155名

協賛企業

49社

ブース出展企業

36社

行政官庁関係者

95名

メディア

45名

メディア掲載記事一覧



# PARTNER

## GOLD SPONSOR



## SILVER SPONSOR



## BRONZE SPONSOR



## SHARE SPONSOR



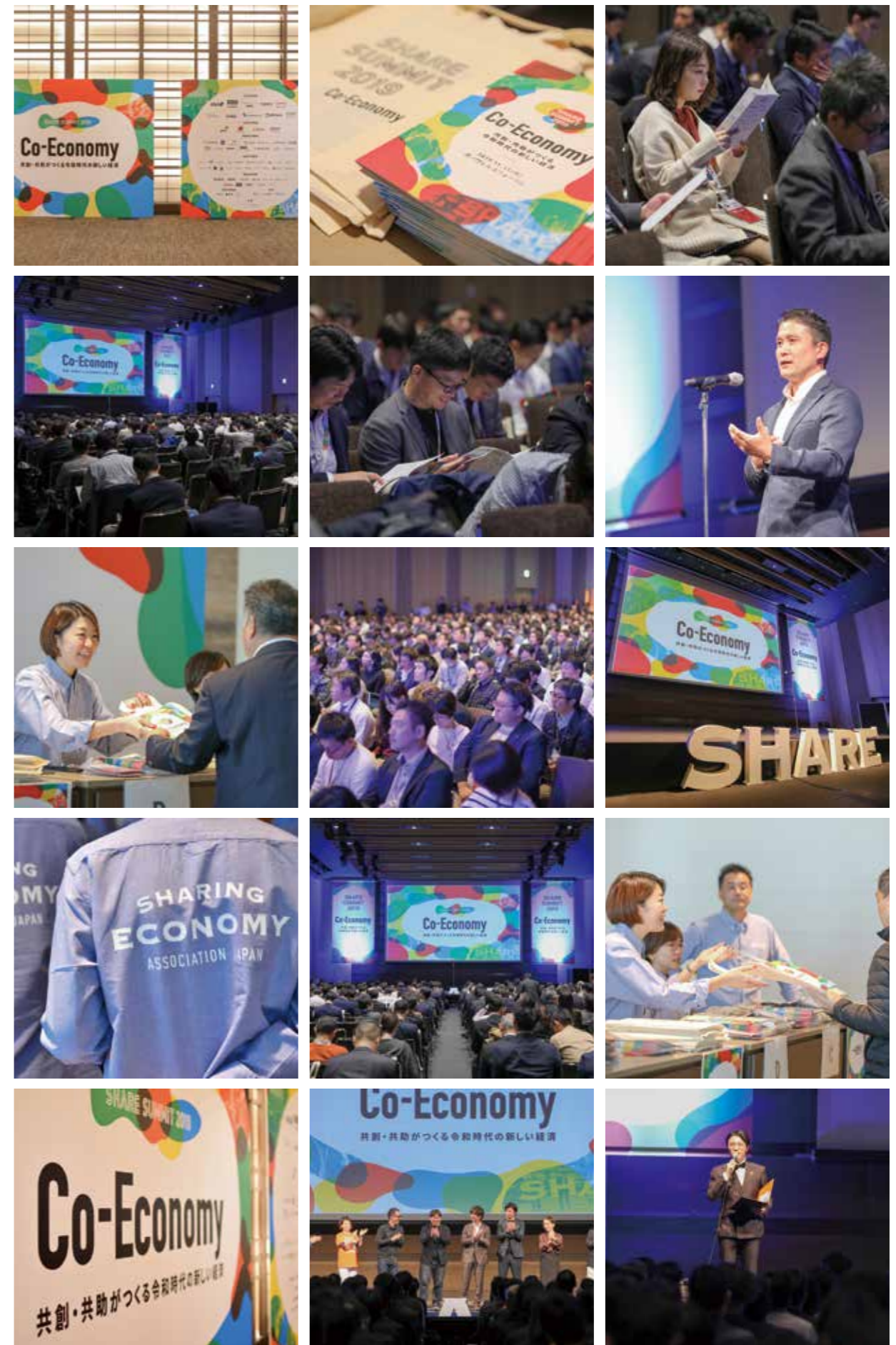
## MEDIA PARTNER



## EVENT PARTNER



## 後援



# Content -Session-

## Session A

### Keysession 13:00-13:50

## Co-Economy

～共創と共助で創るこれからの日本～

- 南 章行 株式会社コナラ 代表取締役社長
- 松島 倫明 『WIRED』日本版編集長
- 増田 宗昭 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社代表取締役社長 兼 CEO
- 宮坂 学 東京都副知事



### Session 3 16:00-16:50

## 地方の未来

～2030年を見据えた地方の競争戦略～

- 藤野 英人 レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長・最高投資責任者
- 木下 斉 一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス 代表理事  
内閣府 地域活性化伝道師
- 久富 雅史 小田急電鉄株式会社 経営戦略部 経営戦略部長
- 米田 恵美 公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）理事
- 佐別当 隆志 株式会社アドレス 代表取締役



### Session 1 14:00-14:50

## NEW TRUST

～分散された信用・信頼による令和時代の企業戦略～

- 大澤 正和 株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ執行役員デジタル企画部長
- 水野 祐 弁護士（シティアライツ法律事務所）
- 武藤 友木子 Uber Eats 日本代表
- 吉田 泰己 経済産業省 商務情報政策局 情報プロジェクト室 室長補佐
- 上田 祐司 株式会社ガイアックス 代表執行役



### Session 4 17:00-17:50

## 災害大国日本の共助

～防災インフラとしてのシェアリングエコノミー～

- 甲田 恵子 株式会社 AsMama 代表取締役 CEO
- 平井 卓也 自民党デジタル社会推進特別委員長 衆議院議員
- 石渡 賢大 一般社団法人日本カーシェアリング協会  
ソーシャルカーサポート事業部マネージャー
- 山本 美香 Airbnb Japan 株式会社 公共政策本部長



### Session 2 15:00-15:50

## オープンイノベーション

～共創による新規事業の作り方～

- 相原 朋子 東日本電信電話株式会社ビジネスイノベーション本部  
BBX マーケティング部アライアンス担当部長
- 志方 比呂基 日本たばこ産業株式会社たばこ事業本部 R&D グループ部長 科学技術戦略担当
- 東海林 正賢 KPMG ジャパン フィンテック・イノベーション部長
- KPMG コンサルティング株式会社フィンテック・イノベーション ディレクター
- 中山 亮太郎 株式会社マクアケ 代表取締役社長
- 重松 大輔 株式会社スペースマーケット 代表取締役 CEO



### Session 5 18:00-18:50

## SDG's

～持続可能な社会を目指す新たなビジネスモデルとは～

- 小泉 文明 株式会社メルカリ取締役 President  
株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長 兼
- 島田 由香 ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 取締役 人事総務本部長
- 越智 隆雄 自民党 政務調査会法務部会長衆議院議員
- 吉田 浩一郎 株式会社クラウドワークス代表取締役社長 CEO



# Content -Session-

## Session B

### Session 1 14:10-15:00

#### 所有から利用へ

～サブスクリプションモデルの可能性～

- 安田 裕美子 株式会社電通デジタルサービスマーケティング事業部長
- 大岩 佐和子 日本経済新聞論説委員兼編集委員
- 天沼 聡 株式会社エアークローゼット代表取締役社長兼 CEO
- 児玉 昇司 ラクサス・テクノロジーズ 株式会社代表取締役社長



### Session 2 15:10-16:00

#### TOKYO2020

～真の観光立国実現に向けたシェアによるおもてなし～

- 太田 雄貴 国際フェンシング連盟副会長 / 公益社団法人日本フェンシング協会会長
- 長谷部 健 渋谷区長
- 馬場 浩史 株式会社 NTT ドコモスマートライフ推進部スポーツ&ライブビジネス推進室長
- 田邊 泰之 Airbnb Japan 株式会社代表取締役



### Session 3 16:10-17:00

#### キャッシュレス元年

～激変するライフスタイルに企業はどう対応するか～

- 吉岡 優 GMO ペイメントゲートウェイ株式会社 常務執行役員  
イノベーション・パートナーズ本部戦略事業統括部統括部長
- 長福 久弘 LINE Pay 株式会社取締役 COO
- 津脇 慈子 経済産業省商務・サービスグループキャッシュレス推進室長
- 小川 嶺 株式会社タイミー代表取締役



### Session 4 17:10-18:00

#### Maas時代の移動革命

～100年に一度のゲームチェンジ～

- 塩出 礼子 森ビル株式会社営業本部オフィス事業部営業推進部チームリーダー  
ViaMobility Japan 株式会社政府公共政策連携担当役員
- 藤原 靖久 トヨタコネクティッド株式会社専務取締役
- 馬場 光 株式会社 DeNA SOMPO Mobility 取締役事業本部長
- 金谷 元気 akippa 株式会社代表取締役社長 CEO
- 中村 慎一 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 執行役員 ビジネスデザイン戦略部長



### Session 5 18:10-19:00

#### シェアという思想

～令和時代を切り拓くスピリット～

- 高木 新平 ビジョンアーキテクト VISIONING COMPANY 「NEWPEACE」代表
- 佐々木 俊尚 ジャーナリスト・評論家
- 津田 佳明 ANA ホールディングス 株式会社デジタル・デザイン・ラボチーフ・ディレクター
- 石山アンジュ 一般社団法人シェアリングエコノミー協会事務局長



# Content -Booth- Share Partner

ANAホールディングス株式会社  
三井住友海上火災保険株式会社  
日本電気株式会社  
KPMGコンサルティング株式会社  
東日本電信電話株式会社  
小田急電鉄株式会社  
GMOペイメントゲートウェイ株式会社  
日本ユニシス株式会社  
Sansan株式会社

# Share Service

- |  |  |                                   |
|--|--|-----------------------------------|
| <b>モノ</b> mocha<br>GREEN UTILITY株式会社           | <b>空間</b> コインスペース<br>コインスペース株式会社       | <b>スキル</b> Spready<br>Spready株式会社 |
| <b>モノ</b> アイカサ<br>株式会社 Nature Innovation Group | <b>空間</b> 軒先パーキング<br>軒先株式会社            | <b>スキル</b> REQU<br>株式会社サイバーエージェント |
| <b>モノ</b> LAXUS<br>ラクサス・テクノロジーズ株式会社            | <b>空間</b> エーヨ!<br>株式会社ユキサキ             | <b>スキル</b> taskell<br>株式会社シオン     |
| <b>モノ</b> Hola<br>株式会社トレンドメーカー                 | <b>空間</b> minikura<br>寺田倉庫             | <b>スキル</b> Smarthon<br>株式会社prd    |
| <b>お金</b> クラウドリアルティ<br>株式会社クラウドリアルティ           | <b>空間</b> カタルスペース<br>株式会社 Catalu JAPAN | <b>スキル</b> タスカジ<br>株式会社タスカジ       |
| <b>空間</b> スペースマーケット<br>株式会社スペースマーケット           | <b>スキル</b> クラウドワークス<br>株式会社クラウドワークス    | <b>スキル</b> ビザスク<br>株式会社ビザスク       |
| <b>空間</b> LIFULLトランクルーム<br>株式会社LIFULL SPACE    | <b>スキル</b> TABICA<br>株式会社ガイアックス        | <b>スキル</b> AsMama<br>株式会社 AsMama  |
| <b>空間</b> Carstay<br>Carstay株式会社               | <b>スキル</b> DIAq<br>株式会社セルト             | <b>スキル</b> トラペロコ<br>株式会社トラペロコ     |
| <b>空間</b> Airbnb<br>Airbnb Japan株式会社           | <b>スキル</b> shotworks<br>株式会社インディバル     |                                   |
| <b>空間</b> ADdRes<br>株式会社アドレス                   | <b>スキル</b> LEBER<br>株式会社AGREE          |                                   |



## アンケート結果

### 来場者

有効回答数 **120** 満足度平均 **4.2**

部長・課長クラス どの展示ブースも熱心にかつわかりやすく説明していただき、最新のサービスがよくわかった。

経営層 未来を明るく考えられるセッションが多く励みになりました。

社員 大企業とベンチャーが手を取り合う「日本型シェアリングエコノミー」の事例を聞くことで可能性が体感できたサミットだった。好きな場所でいつでもどこでも仕事をして豊かに暮らすことのできるライフスタイルが描けてワクワクしました。

個人事業主 渋谷区の長谷部区長がおっしゃっていたように、成功事例の共有がさらにすすむとよいのではないかと感じました。素晴らしい学びの機会をありがとうございました。

### 協賛企業

満足度平均 **4.6**

ゴールドスポンサー イベントを通じてシェアリングエコノミー認知度の高まりと企業の関心の高さを非常に感じることができ、私たちの推進していることは間違っていないと確信を得ることができました。

ゴールドスポンサー 登壇者も聴衆も前向き度合いがすごかった。投資対効果は抜群だった。

### ブース出展企業

満足度平均 **4.4** ブース来訪者数平均 **100**名



## Special Column 01

プロフィール 大澤 正和

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ執行役員デジタル企画部長



# 新たな信用・信頼を創造、安心してサービスを利用できる社会へ

今回SHARE SUMMIT 2019「NEW TRUST ～分散された信用・信頼による令和時代の企業戦略～」のセッションに登壇させて頂きありがとうございました。

シェアリングエコノミー協会様とは2018年11月に初めてお会いさせて頂き、「世の中の流れが『所有』から『利用』へと移り変わり、サービスの中心もCtoCに変わっていく。」との話を伺い、大きな可能性を感じる一方、大きな不安を抱いたのを記憶しております。

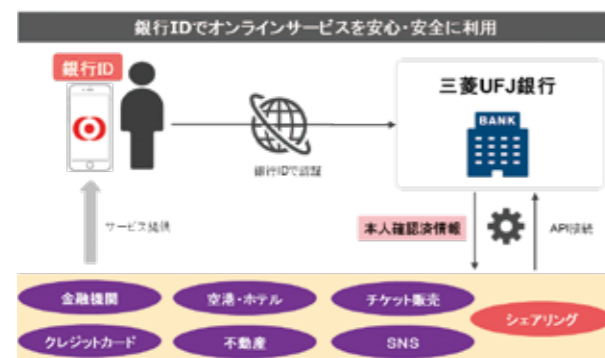
我々銀行を取り巻く環境も大きく変化してきており、人々の生活の中心にデジタル・ツールが否応無く入って来るようになりました。銀行とお客様との接点も従来の「店頭」から「オンライン上」へとシフトする中、今後CtoCでのサービス提供が増えると、銀行としてお客様との接点を失いかねないとの危機感があります。そんな中、今回のテーマが「共創」「共助」であると同い、銀行としてお客様の利便性・安全性の観点で接点を持たせて頂き、何らかのお手伝い出来るのではないかと考え、登壇させて頂きました。今回のセッションでは、Uber Eatsの武藤さんから、「シェアエコ事業が普及すれば、より多くの人にチャンスが与えられる社会が実現する。」とのご発言がありました。例えば、Uber Eatsの配達によって路地裏のお店の販路が拡大したり、配達パートナーとしてフレキシブルな働き方が出来たりようになります。シェアリングエコノミーによって我々の生活は、間違いなくより便利になっていくと考えます。

一方で、シェアエコ事業者が今後もビジネスを拡大して

いく為には「信用・信頼」、「安心・安全」を提供し続ける必要があります。既存のルールでフィットしない場合は、新しいルールが必要となります。弁護士の水野さんからは、「ディスラプションによる新しい世界の創造は終わりを告げてきており、今後は関係者の対話によってルール作りをしていく必要がある。」とのご発言がありました。また、経済産業省の吉田さんからは「新しいルールが出来るとそのルールに沿ったビジネスしか出来なくなってしまう為、政府と関係者が一緒にルールを作っていくことが大切。」とのご発言がありました。

今回登壇させていただき、シェアリングエコノミーによって、より多くの人にチャンスが与えられる一方、シェアリングエコノミー普及には「安心・安全」なサービス提供がいかに重要であるかを認識しました。特に日本においては、トラブルが生じた場合に自己責任で片付けられないケースへの対応が諸外国に比べて必要と思われ、それだけに金融機関の貢献できる場面も多いのではないかと考えます。弊行が提供している本人確認サポートAPIサービス(下図)は、ユーザーが指定する事業者へ、ユーザー本人の同意のもと身分確認に必要な情報を提供するサービスとなります。

金融取引のユビキタス性が日々高まっている中、CtoC取引における決済や保険等金融サービスの提供に加えて、今後はこうしたサービスを通じてシェアリング事業者様の「信頼・信用」、「安心・安全」にも貢献していきたいと考えています。



## Special Column 02

プロフィール 東海林 正賢

KPMG ジャパン フィンテック・イノベーション部長  
KPMG コンサルティング株式会社 フィンテック・イノベーション ディレクター



# Open Innovationを成功させるための、シェアリング・エコノミーの活用

SHARE SUMMIT 2019は、私が今年参加したイベントの中で最も印象深いイベントでした。各セッションを聴講されている方々の貪欲な姿勢も、登壇されている方々の新しい考え方も、ブースの展示方法の斬新さも他のイベントには無い熱量を感じました。何よりも、経済が停滞する日本においてここだけが新しい産業の黎明期を予感させる不思議な空間に思えました。改めて思い返して、参加の機会をいただいて本当に良かったと思っています。

「シェアリング・エコノミー」については、既存産業すべてにインパクトを与える変革であるとの認識から以前より注目しており、シェアリングエコノミー協会が主催するMeet Upなどにも個人的に参加させて頂いていました。また、昨年担当している慶應義塾大学経済学部の「フィンテックとソーシャルインフラストラクチャー」の授業においても、協会の代表の重松様や幹事の馬場様にご登壇いただき、学生に最先端のビジネスモデルとして紹介してきました。そのような環境の中で、今年のSHARE SUMMITのテーマが「共創」であったため、弊社のOpen Innovationのサービスを皆様にご紹介でき、早急登壇させて頂くことを決意しました。まず驚かされたのは、一緒に登壇させて頂くことが決まっているマクアケ様が11月11日の前週末に上場が承認されたことです。当然、舞台袖では打ち合わせよりもそのことで盛り上がり、お祝いムードでセッションを迎えることとなりました。またその週末には同じ壇上上がったスペースマーケット様も上場が承認されるという、このシェアリ

ングエコノミーというビジネスのダイナミズムを肌で感じる意義深いセッションとなりました。

セッションのテーマは「Open Innovation」ということで、NTT東日本様、日本たばこ様という大企業によるシェアリングエコノミーを活かした取り組みのご紹介となりました。日本たばこ様からは、Makuake Incubation Studioというプラットフォームを使った商品の開発事例をご紹介いただきました。深呼吸でリラックスできるという見た目も中身も画期的な商品を実際にお持ちいただきました。NTT東日本様は自社の持つ建物や駐車場、社用車などの多くの資産をシェアリングエコノミーで解放するという試みをなされていました。駅前など好立地の物件も多数あるため、ユーザーの利便性の高い人気の物件になるのではと思いました。

私が考えるOpen Innovationで成功するポイントは、Open Innovationは目的ではなく、あくまで手段であるということをお忘れなことです。何を目的にしているのか、解決したい課題が何なのかを真剣に考える。そして具体的に提示することで、新しいテクノロジーやアイデアを持ったスタートアップとの協業をスムーズに進めることができます。Open Innovationは、大企業の活性化とスタートアップのビジネス拡大の両方を実現し、さらに世の中が良くなっていくという大きな可能性を秘めています。そのことを、このセッションで再認識させていただいたことが私たちにとっての最大の収穫でした。本当にありがとうございました。これからの皆様の成功を確信しています!





## Special Column 03

久富 雅史

小田急電鉄株式会社  
経営戦略部 経営戦略部長



# くらしのインフラづくりを シェアエコとの連携で加速させます

SHARE SUMMIT 2019の大成功おめでとうございます!このような盛大な機会に参加させていただけたことに、シェアリングエコノミー協会をはじめ関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。

小田急グループは、東京西部から神奈川県を事業エリアとして、1927年の新宿・小田原間の開業以降、沿線エリアのまちづくりを運輸業を中心に不動産や流通などさまざまな事業をつうじて進めてきました。沿線エリアは、世界一のターミナル新宿と郊外に広がる住宅エリアに比べて、箱根や江の島・鎌倉など観光地まで多彩な都市構造を持ち、沿線人口約520万人を抱える各自治体との繋がりが非常に強いという特徴があります。

持続可能な沿線エリアをつくること、高齢化によるコミュニティ維持や交通弱者の増加など顕在化する社会課題へ対応していくこと、これは小田急の存在意義そのものです。これらの課題に対応するだけでなく、幸福な社会を創っていくための新しい力としてシェアリングエコノミーに大きな可能性を感じ、セクターの枠を超えて「共創と共助」による新しい経済・社会をつくっていくテーマに共感して協賛させていただきました。

イベント当日会場の熱気はすさまじく、シェアリングエコノミーに対する期待感をひしひしと感じました。

おかげさまでブースには300名以上の方にお越しいただき、多様な方々との接点を持つことができました。鉄道会社が手掛けるシェアリングエコノミーと沿線活性化への取り組みに注目していただく機会となり、今後の展開に弾みをつけることができそうです。セッションでは「地方の未

来~2030年を見据えた地方の競争戦略~」に壇上させていただきました。私が生まれ育った沿線の団地など高度経済成長期に開発が進んだ住宅地では、当時の子育て世代が同時に入居しているので、地方では緩やかに顕在化していく問題がそこでは一気に進みます。セッションの中では、昨今、人口減による暗い未来ばかりがフォーカスされ、暮らしがどう変化していくか、何が幸福につながるのかが置き去りになっていることを問題視し、議論しました。話題の中心になった「多住流動」については、都市と郊外とともに観光地を抱える小田急らしく、遊びながら働ける新しいライフスタイルを、これからの駅やまちから提案していきたいと思っています。

これからの生活インフラとして、地域密着型のサービス提供プラットフォーム「ONE(オーネ)」が12月上旬にサービスインしました。名称は、「Open Next Experience」の頭文字から取っており、1つのIDで、小田急グループのサービスや提携するシェアリングサービスなど多彩なサービスを、安心、快適、便利にご利用いただけます。サービスイン当初から、多くのシェアリングサービス事業者様に連携していただいています。単にネット上でお客さまとサービスをマッチングさせるだけでなく、駅などのリアル接点を持つ小田急の強みを活かして、地域や人との新たなつながりを生みだせるものにしていきたいと考えています。また、地域に小さな仕事があること、活躍出来る場があること、交流があることが地域の持続可能性につながることから、スキルを提供する方を増やしていくことにも貢献できればと考えています。



←「ONE(オーネ)」について

## Special Column 04

吉岡 優

GMOペイメントゲートウェイ株式会社常務執行役員  
イノベーション・パートナーズ本部 戦略事業統括部  
統括部長



# 「シェアリング」×「キャッシュレス」 の未来

この度はSHARE SUMMIT 2019に参加させていただきまして誠にありがとうございました。このサミットに参加し、改めて業界の盛り上がりを感じることができ、他事業者・他業界の方々のシェアリングエコノミーに対する様々な意見を吸収するとても良い機会となりました。今回お声をかけて下さいましたシェアリングエコノミー協会様に御礼申し上げます。

シェアリングエコノミー協会様とは2018年ごろからお付き合いさせていただいておりますが、当時は今の盛り上がりから考えると、シェア事業者様の数も、世の中の関心度もまだまだこれからという印象だったと記憶しております。弊社としては、今後日本にとって欠かせない、必ず成長していく業界・市場になると確信し、当時からシェアリングエコノミー事業を始める企業様に対して、弊社の決済システムをはじめその他様々なソリューションを通じて、微力ながら事業立ち上げ・拡大をサポートさせていただいております。具体的には、買主様のお支払い方法の拡充(※1)や、売主様への振込業務自動化・簡略化のためのシステム(※2)のご提供、また、シェアリングエコノミーという新たなサービスで決済等を行う上での関連業法対応や、業務フロー・運用設計を含めて、当初より現在までサポートさせていただいております。また、当業界を盛り上げる一員として、決済代行業界で初めて「シェアリングエコノミー認証制度」サポートパートナーに登録するなど、協会様とのお取り組みを深耕させていただく中で、本イベント

参加へのお声がけをいただき、この度セッションへの登壇、ブース出展をさせていただきました。サミット当日は去年の同イベントとは規模・雰囲気ともに別物のようで、今まで進出していなかった領域への広がり、それに比例する以上の関心の高まりに驚きました。

合わせて、登壇させていただいたセッションへの参加者の多さからも、シェアリング業界に関する世の中の期待を強く感じたと共に、当業界の発展とは切っても切り離せない「キャッシュレス」への認知・関心の高まりについても、強く感じる機会となりました。置かれた環境・立場の異なる各プレーヤー(経産省様、LINE Pay様、タイミー様、TRUSTDOCK様)と議論を交わし、それぞれの意見に一度に触れる機会は大変貴重でした。このような機会をいただきましたシェアリングエコノミー協会様、並びに各登壇者様へ御礼申し上げますとともに、「シェアリング」「キャッシュレス」の架け橋となる存在として、更なる業界発展へ寄与していかなばと、身の引き締まる思いを抱いております。

今後、シェアリングエコノミーがさらに発展し、人々の生活をより便利に・快適にしていくことは間違いないかと思っておりますが、一方で業法や運営ノウハウ、それらを支える我々のようなインフラの整備もまだまだ道半ばと感じております。弊社としましては、これまで多くのシェアリング事業者様をサポートさせていただいている事業者として、今後もシェアリング業界・事業者の今後の発展をリードしていく企業でありたいと考えております。



(※1)PGマルチペイメントサービス  
クレジットカード決済やコンビニ決済をはじめとした多数のお支払方法を一括して提供する総合決済サービスです。複数の決済手段の「契約」「システム」「入金」を一本化してご利用いただけます。\*ご利用には審査が必要となります。

(※2)GMO-PG送金サービス  
APIやファイル連携等で、振込の自動化・簡略化が可能となるシステムです。シェアリング事業者様に多い売上金の入金だけでなく、返金対応などにも多数ご利用いただけます。\*ご利用には審査が必要となります。

プロフィール 津田 佳明

ANA ホールディングス株式会社  
デジタル・デザイン・ラボチーフ・ディレクター



## 令和時代を生き抜くには距離を 超えて遊休資産を使いまくれ!

「シェアリングエコノミーがやばいから話を聞いてこい!」と当時の役員に言われ、シェアリングエコノミー協会代表理事の重松さんを突撃訪問して話を聞き、勢いで協会に入会したのが今から3年前。「エアラインがシェアリングエコノミーって何をしていますか?」というお決まりの問いに対して、当初は明確な回答も見つからないまま協会のイベントに参加を続けていた。そして、いまずぐにエアラインのお客様は増えないかもしれないが、地域活性化や新しい旅のスタイルにつなげることができれば、国内地方路線の維持継続というANAの重要な経営課題に対する切り札になるかもしれないと考えるようになった。2年前のSHARE SUMMITでもスポンサーとなり、Airbnbとの提携をPeachと一緒に発表しながら、シェアリングエコノミーにける想いを発信した。その後は、多くのシェアエコ事業者の皆さまと提携していろいろ試しているうちに、シェアエコを軸とした次世代ツーリズムが構築できるという妄想が膨らんできた。さらには、関係人口拡大を強く意識するようになって、住居のサブスクを提供するADDRESSと提携して多拠点生活の拡大を図る取り組みをしているところに、スポンサーのお声がかかり、協会事務局の皆さまの熱意に押されてお受けすることになった。

今年参加してまず感じたのが、シェアエコ事業者の皆さまのビジネスモデルがしっかりしてきていることである。3年前との違いは歴然でしっかりと出資者もお客様もついてきているなど見て取れる。次に感じたのは、参加者のビジネスパーソン比率が上がっていることだ。スーツをきているという見た目での判断にはなるが、明らかに企業の顔で堂々ときている人が増えている。最後に、パネル登壇・ビデオメッセージ等々みれば一目瞭然で、かなりインフルエンサーである支援者が増えていると感じた。年号も令和に代わりシェアエコ旋風が吹き荒れる予感である。

もともとスポンサー枠だったのか事務局の周到な謀略だったのかという疑問が大いに残るが、プログラム最後のパネルディスカッションに登壇した。「シェアという思想〜令和を切り拓くスピリット〜」という壮大なテーマで、ビジョンアーキテクト・高木新平さん、ジャーナリスト・佐々木俊尚さん、シェアリングエコノミー協会事務局長・石山アンジュさん、と並べてみただけでも凄いメンバーの中にサラリーマンが紛れ込んだ。事前打ち合わせは雑談のみで、始めると案の定いろんな方向に話は大きくふれた。ほかのメンバーの話が面白すぎて聞いているだけで終わってしまいそうの中で、企業人的目線からの意見をぶつけてくれた。社会・経済の本質的な部分を語るなんて学生以来のことで、脳の仮死状態だった部分を刺激された気分でテンションがあがった。実際に話した詳細は再現できないのでレポートを見てほしいが、「これからの時代の人の豊かさとは何か」「GDP成長至上主義からの脱却の手がかりは」「個人とコミュニティとの距離感」「AI・ロボティクスと人との役割分担」といったことを真剣に考える貴重な時間となった。

シェアエコ事業者の提供するサービスは、資本回転率を上げる行動を促しており経済合理性がある。消費者にとってもサービスを受容する機会が増えて、価格が下がるのでメリットがある。一方でGDP成長をベースとしたモデルでビジネスを展開してきた既存の事業者は、事業領域を脅かされることに懸念を抱く。ここにどう折り合いをつけるかが、令和の時代の最大の課題とも言える。なんてサラリーマンが評論していても仕方ないので、自分の立場でできることからやっていくしかない。「エアライン×シェアリングエコノミー」という組み合わせで、地域の関係人口を拡大していくためのさまざまなトライアルを繰り返していくことにする。

